

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091600157		
法人名	社会福祉法人 豊生会		
事業所名	グループホーム西牟田		
所在地	福岡県久留米市三瀬町西牟田6323-9		
自己評価作成日	平成27年11月15日	評価結果確定日	平成28年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

ご利用者様の尊厳を最大に考慮し、日常生活において家庭的な雰囲気大切にしています。ご本人様の持っている能力を最大限に引き出し自立に向けての生活が可能な限り出来る様に支援します

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成27年12月15日		

「グループホーム西牟田」は住宅街の中の広い敷地内にある事業所で、山茶花の花が敷地周囲のフェンスに咲きほこり、敷地内で桜見物が出来る様に桜の木も5本植えられている。「地域との触れ合いを密に図る。優しい言葉掛けを心掛けよう」と理念を下に昨年スローガンを作成しており、実践に向けて地域の敬老会に出席したり、文化祭には入居者と職員が作製した人形等も展示している。各ユニットは別々に工夫を凝らしており、リビング等の飾りも違い、其々の雰囲気醸しだしている。入居者1人に1人の担当者が付き、家族に年賀状や暑中見舞いの他にお手紙を年2回程度書き、近況報告等を行っており、家族との関係構築も出来ている。笑いがあり和やかな雰囲気職員間の協力体制も出来ており、外部研修等は事業者が交通費等を負担したり、修了証を取得すると手当も出され、スキル、モチベーションアップにつなげられる。職員の資格取得に向けての意欲も高く、今後もより一層の発展が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所に理念を掲示し毎日の朝礼時に唱和し実践につなげられるように職員一人一人の意識を持って業務にあたっています	管理者や職員と一緒に検討し、作り変えた独自の理念を下に、昨年はスローガンを「地域との触れ合いを密に図る」「優しい言葉掛けを心掛けよう」と作成し、笑顔や思いやりや言葉掛けを大切にして、家庭的雰囲気の中で安心安全な生活が出来る様に実践に心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に1回運営推進会を開催し、区長・市会議員・顧問・民生委員・包括センター・介護保険課の方々との話し合いにて、地域に溶け込みながら施設の運営がスムーズに行ける様に努力をしていますまた協力を頂いています。	事業所でも公民館の催しに参加したり出て行く事も増えており、町内会にも入り、回覧板等で敬老会や秋祭りや避難訓練等参加等を地域の人に呼び掛けている。地域の方より、収穫した野菜等の差し入れもあり、交流を深められている。	さらに地域の方との交流を勧めたいと検討されており、意欲的である。事業所の内容やどのような所かを知って貰う為、事業所に見学に来てもらい、お茶等を勧めながら、気軽に立ち寄れるような話し合いの機会等が設けられる事に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会にて必要に応じて説明しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活の状況・状態・活動等を報告し、現状で困っている事等に対してのアドバイスを頂きながら、ご利用者様によりよいサービスが提供できる様に職員間で常に話し合いながら取り組んでいます	運営会議には介護保険課・市議会議員・区長・民生員等の出席があり定期的に開催されている。事業所の案内看板設置を検討し、出席者の元区長や市議員を通して、現在3箇所の看板を設置した経緯があり、事業所迄の道のりが判り易くなっている。	家族会議は開催されているが、運営会議に家族の参加が少ない為、今後は運営会議の議事録を閲覧できるようにしたり、運営会議の案内を家族に郵送する等を行なわれることが望まれる。家族の参加を積極的に進め、さらにグループホーム交流会で他事業所と交流を深め、他事業所の運営会議等に参加したりする事で知識を得て、会議に役立てられる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会にて現在のホームの現状を伝え、同時に困っている事を相談したり、それに対してのアドバイスを頂いています。また疑問やわからない事が起きた時は市の介護保険課に相談をしながら対応しています	市町村との連携はできており、困った事がある時は相談したり、介護保険の更新時等は直接支所に出向き、空き情報を得たり、事業所のパンフレットも設置させてもらっている。運営会議等に市議会議員等の出席もあり、相談したり情報を得たりしており、連携はできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止事項をまとめ掲示しています。また毎月身体拘束委員会主催での勉強会を行い、職員全員が身体拘束の理解を深める様に取り組んでいます	毎月の内部研修会を行ない職員全てが拘束行為に関して周知しており、玄関の施錠もせず、身体拘束も行っていない。日頃から優しい声掛けを心がけており、大きな声でびっくりさせない様にも気を付け、すぐ気づいた時にその場で職員や管理者が注意し合っている。	

H27自己・外部評価表(GH西牟田)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加などにより虐待の理解を行うと同時に、職員が一丸となって虐待をしないケアに向けて勉強しながら行っています		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修や勉強会に積極的に参加しながら知識を深め、それを全職員も共有できるようにしていきたいと思えます	入居後に生活保護の申請手続きを行った事例があるが、それ以外の事例は無い為、権利擁護や成年後見人制度は外部研修に出席後に、内部へ回覧し伝達研修を行っている。今後もグループホーム交流会等や伝達研修を行っていく予定であり、利用や説明の必要時は管理者へ繋げる対応を行っている。	内部での伝達研修等も行われており、職員も大まかな理解は出来ているが、パンフレットや資料等を設置し、説明や理解がし易い様な環境を作られる事が望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者や担当者はご家族様やご利用者様へ不安の減少に納得のいく形での説明を行うと同時に理解して頂ける様に努めています		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。ご家族様より苦情が出た場合はすみやかに解決にむけて全職員にて話し合いより良い方向に行ける様にしています。同時に面会時の時には要望や意見を伺っています	家族会の年1回の開催時や、家族の面会時に意見を聞く事が多く、個別での要望が多い。面会があまり出来ない遠方の家族へも、日々の伝えたい事をメモに残して纏めて電話で報告したり、聞き取りを行っており、ほめ言葉が多く、個別の意見に対応している事が多い。	家族会や面会時や電話等で家族の意見の聞き取りを行っているが、好意的な意見が多い。いい事ではあるが、潜在的な意見等の抽出の為に、アンケート等を本部から出して貰い、満足度や要望を抽出を図り、対応し定期的な報告を行ない、事業所の運営に役立てられたい事を期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っているミーティングや責任者会議などにて、職員の意見や提案などを話し合いながら良い方向に行くように取り入れる様にしています。事業所では対応できない項目は本部の指示にて動いています	各ユニットで月1回のミーティングが行なわれており、年2~3回合同でミーティングが行われている。職員の要望や備品の購入も、すぐ受入れや対応され購入されている。職員の提案で体操や歩行練習の変更が取り入れられ、入居者の筋力低下を防ぐ対応が行われていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課表にて職員の意識・行動・勤務状態などの調査を行い個々の能力に応じての評価を実施し働きがいのある職場作りに努めています		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	雇用時には年齢・性別・経験・資格保持に関係なく採用を行っています。また本人の持っている能力を最大限に發揮できるようにサポートを行っています。	20~60歳代の職員がおり、休憩場所で休憩もでき、職員の資格取得に向けての意欲も高く、職員の希望休のシフトも考慮され、終了研修証の提出で手当も付き、外部研修時は勤務時間で行き交通費等の助成もある。職員の仲も良く、職員の能力を生かし、レクリエーションや料理やフロア等の作品づくりや飾り付けに活かされている。	

H27自己・外部評価表(GH西牟田)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に配慮しながらより良いサービスが行えるように心掛け、研修等へ積極的な参加により知識の向上を目指しています	実務者研修や基礎研修後に、資料を内部に配布したり、尊厳や声掛け等についての内部での研修も行っている。研修の案内が来た時は管理者から毎回資料の配布や参加への声掛けが行われており、職員も理解し人権を尊重した声掛けが行われている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は必ず回覧し参加を促しています。また苑の方からも指名して研修参加を促し、研修で得た知識を確実に実践に行かせる様に職員自身の意識の改革を図っています		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設との交流はなかなかないが交流会への参加や勉強会には極力出席を心掛けています		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約の段階でご本人様のかかえている問題点・不安・要望などを十分伺い、安心して苑での生活が出来る様なサービスが提供できるようにより良い関係作りに努めています		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のお話を十分お聞きし不安を解決できる様なサービスを提供することによって安心できる様なより良い関係作りに日頃からコミュニケーションを重視しています		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様・ご本人様より基本情報を頂き、話し合いを重ねながらニーズに合った支援が出来る様に対応していきます		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の出来事や得意な事・支援すれば出来る事など状態・状況を見極めながら共に生活していく関係作りを重視しています		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様との信頼関係と共にご家族様へも日ごろの状況・状態を随時伝えながらご協力を頂き、信頼関係を構築できる様に努力しています		

H27自己・外部評価表(GH西牟田)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・及び入所以前の方々とこれまでの関係が途切れない様出来るだけの支援に努めています	入居者の以前からの知り合いの訪問もあり、以前の理美容に家族送迎で出掛けたり、ドライブに行ったときは自宅前まで行ったり、入居者が行きたいと言った時は家族に伝えて外出出来る様にしたり、個別に買い物に連れ出している。職員が年賀状や暑中見舞いの他にも、年2回以上は家族に近況を伝える手紙を送付しており、「ホームだより」も年2回発行している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係を把握し見守りしながら、孤立をさせずにかかわり合う事の出来る様に心掛けています		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じ支援出来る所は行い、また相談ごと等にも可能な限り対応しています		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いやまた希望を表せる様に働き掛けます。理解力に応じての説明をきちんと行い、希望などが納得できる様に努めています	入居当初に、家族や入居者から聞き取り、独自のアセスメント表に記入し、介護保険の更新時や状態の変化時にアセスメント票の見直しや記入している。思いを伝える事が出来ない入居者は、日々の喜んだ表情や日頃の言葉等から、職員間で話し合いを行い、面会時等に家族にも確認して、意向の把握に務めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活習慣を把握し、またその時々々の状態に応じての対応を心掛け安心して苑の生活が送れるように支援します		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活スタイルの状態に応じての支援・また本人の持っている能力の把握に努めながらの対応を行っています		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書を実践・モニタリングにて適切かどうかの検討を行いながら、必要に応じてご家族様やご本人様とも話し合いを行いより良い介護の実践にむけて方向性を探っています	入居者1人に担当職員が1人付き、毎日のケア内容を記入し、3か月に1回モニタリングを行なっている。状態変化時はミニカンファレンスを行ない、介護計画書は職員全員で話し合っ作成しており、2ユニット別々に工夫して介護計画書等を作成している。	医師や家族や入居者からも聞き取りが行われて担当者会議が開催され、議事録が作成されているが、担当者会議議事録の中にも掛かりつけ医の情報等や家族や入居者の意向も記入して作成される事が望まれる。

H27自己・外部評価表(GH西牟田)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は毎日記録しています。個々の医療ノートを作成し変化があった時等は申し送り時職員に伝え、全員が経過がはっきりとわかる様にしています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに対応が出来る様に、状況の把握に努めながら職員も日々勉強しながら対応しています		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアやまた地域よりの参加の案内などを活用しながら地域とのかかわりを維持し、楽しい生活が送れるように努めています		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はまず家族に状況・状態の説明を行い本人にも納得する様に説明行う。また健康管理は主治医に協力をお願いしています。	入居前からのかかりつけ医を受診されている入居者もおられ、家族が受診に付き添っているが、状況により職員が付き添う事もある。提携医の往診もあり、家族送迎での受診時は、口答で状態を聞き取り、業務日誌や介護記録等に記入し、朝・夕の申し送りや申し送りノートで職員が共有している。職員が対応した時も家族に報告し、職員と共有し対応している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の日常生活の状態の把握に努め、異常時には報告・指示を仰ぎながら適切な処置が行えるようにしています		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関・ご家族様との情報提供を密にし今後の支援についてご家族様の意向を尊重しより良い関係作りに努めています		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢者の入居者様が多く急変時に備え家族の意向を傾聴し主治医との連携を密に図りながら状態や状況の説明の機会を設け必要に応じての対応が出来る様にしています	看取りは行わない方針で、入所時に説明を行っている。体調不良時は提携の24時間の対応があり、指示を受ける事が出来る。食事が入らなくなったり、重度化した時は医師にその都度報告を行ない、家族と入院等を話し合っており、急変で緊急搬送された時も良くなられた時に、再入居等の話合いも行っている。	

H27自己・外部評価表(GH西牟田)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急講習を定期的を実施し、ご利用者様の急変に備え全職員がきちんと対応が出来る様に勉強を行っています		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災・防火訓練を実施し、災害時には落ち着いて素早く対処が出来る様になっています。避難訓練を行う時には地域の方にも参加をお願いしています。また万が一の時には協力をお願いしています	年2回消防署立会いで、夜間想定で火災訓練を行っており、通報装置も毎回押して確認している。緊急時の連絡網も作成しており、地域の方も参加して行なわれており、今年初めて「玄関で放火をされた」と想定して、避難訓練を行っており、反省会の内容も議事録に記載し、今後の訓練に役立てている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報鍵付きの書棚に保管し個々に対する声掛けもやさしく話掛ける様に指導しています	接遇マナーの外部研修へ行き、内部へ伝達研修を行っており、介助時の異性での介助を嫌がられる方には同性で対応したり、職員間でも皆で補いながら対応し、優しい声掛けを行っている。写真の同意も取られており、「ホームだより」や事業所内にも、入居者の笑顔の写真が沢山掲載されており、一人ひとりの人格を尊重した言葉掛けや対応が行われている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の表情や行動を見ながら意思の疎通が図れる様に、またいつでも話が出る状況を作っています		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様同士の関係を把握し、見守りしながら孤立をさせずにかかわり合う事の出来る様に心掛けています		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様が着たい服や髪型など希望を伺いながら、その人らしさを尊重しながら対応するようにしています		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自宅にいるときのような食事になっています。また時にはご利用者様の希望もお聞きしながら柔軟な対応を心掛けています	管理者がインターネットでメニューを検索し、職員で話し合いアレンジして1週間分の買い物に行き、新鮮な食材を購入して刺身や握り寿司も提供した。入居者に手伝って貰う事も、好みや治療食等にも対応できる。職員1名の検食もあり、味等の吟味されている。園庭でテーブルを出してオヤツを食べたり、外食も多くウナギの出前を取る事も、行事食等の工夫もされている。	

H27自己・外部評価表(GH西牟田)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあわせての食事量を提供し、また水分摂取量や食事量のチェックを行いながら状態観察に注意し努めています		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず行うように声掛け行っています。また介助が必要な方には食後すぐに施行して清潔が保持出来る様に対応しています		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し声掛けにて誘導を行い、出来るだけトイレにての排泄が出来る様にしています。またオムツなどを使用している方には個々の状態に応じた介助を行っています	各個室に車椅子対応可能な広めのトイレがあり、介助の必要な方には、小さな声で声掛けして誘導し介助しており、全員分の排泄チェック表を記入し、排泄パターンを把握している。オムツ使用の方で便が出にくい方は職員2人介助でトイレで排便ができており、職員全員で話し合いながら、紙パンツから布パンツとパット使用に改善出来た入居者もいる。改善に向けた支援が日頃より行われている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難者は主治医からの指示にて軟下剤にて対応。排便チェックにて状態に応じてのコントロールを行っています		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の拒否が有る方は時間差を置いたり、別の日に入浴をして頂く等個々に応じて対応しています	ゆったりした2人一緒に入浴出来る広めの浴槽で、手摺りも多く、かけ流し湯で個浴を行っている。車椅子の方は職員2人介助で安全な入浴を行っており、時間や入浴希望日も相談で対応出来る。事業所でバスタオルやタオルを準備しているが、タオルやシャンプー等の持ち込みも出来る。入浴剤も使用されており、職員が皮膚管理や軟膏塗布等もしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の状態・状況を日ごろからの把握により声掛けを行う。安心した生活が送れるように支援しています		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示により服薬はして頂いています。職員は日ごろから薬の種類・内容・目的等を理解し状態の変化に対応出来る様にしています。受診等で変化の有る時は医療ノートに記入をし職員全体が把握出来る様にしています		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事を尊重し出来る事は手伝って頂き、生きがいややりがいや楽しみを持って苑での生活が出来る様に見守りを行いながら支援しています		

H27自己・外部評価表(GH西牟田)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化が進み全体での行動が以前と比べると無理が生じているのが現状です。少人数にての対応を行っています。四季に応じて花見や買い物・ドライブなどにて出来るだけの外出の機会を取れる様にしています	外食に行ったり、花見にドライブに行く事も多く、職員付き添いの個別受診等の帰りに買い物に寄ったり、車椅子の方も日常的に散歩が行われている。近くの公園に行ったり、広い敷地内を散策したり、外気浴等もなされる。地域の敬老会に入居者が参加し歌を披露された事もある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所にて預かっていますが本人様の買い物などは預かり金から使っています。ご本人から購入の希望が有る時は柔軟に対応しています		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様から依頼が有る時は電話もかけられる様にしています。ご家族様からの電話のときは取次をしています		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い空間には日差しが降り注ぎ明るく、窓からはのどかな自然あふれる風景が眺められます。壁には毎月ご利用者様との作品作りを実施し飾りつけなど 四季の移り変わりを肌で感じながら暮らしていける様に工夫しています	左右対称の2ユニットの事業所内部は、明るい木目の落ち着いた雰囲気、其々のユニットには入居者と職員が作成した工夫を凝らしたクリスマスの飾り付けが、廊下やリビングに飾られ、入居者の笑顔の写真も多く掲示されていた。リビングには大きな窓があり、外の風景を楽しんだり、畳の間があり、大き目のソファが置かれ腰かけてテレビを見たり、ゆったりと自宅にいる様な雰囲気でも過ごされていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている			
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活スタイルを尊重し使い慣れた家具や装飾品などは持ち込んで頂き自宅での生活を可能な限り維持しながら安心して苑生活が出来る様にしています	居室内はトイレや洗面所があり、ベットや筆筒が備え付けられている。布団等も事業所で準備されており、身一つでの入居も可能である。馴染みの物の持ち込みも可能で、テレビ、衣装ダンス、空気清浄機、足マッサージ器が置かれ、写真や人形等が飾られ、其々居心地よい空間づくりがされていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・ホール・トイレ等手摺りを設置し安全に配慮しています。またご本人様の出来る事を尊重しながら出来るだけ自立した生活が保持出来る様に見守り強化などにて対応しています		